
友の会通信

洋学の歴史を楽しく学ぶ
津山洋学資料館友の会

2023 February No.14



雪に埋もれた資料館の前庭。先人の皆さんも寒そうですね！
(46 cmという記録的な積雪を観測した1月25日撮影)

CONTENTS

- 友の会創立 40 周年記念企画
友の会 40 周年に想うこと・・・・・・・・・・ 2～3
- 植栽整備ボランティアの実施
薬草の小径から ①
蘭学・洋学史跡探訪 ④・・・・・・・・・・ 4
編集後記

友の会創立 40 周年記念企画

友の会 40 周年に 想うこと



先般お届けしました 40 周年記念誌には、津山市長や教育長、そして洋学史学会の会長から祝辞を頂きましたが、一般の会員の方々は、この節目を迎えた友の会について、どんな思い出があって、今どんなことを想い、または考えているのか、自由にお書きいただきました。

友の会 40 周年に想うこと

河本匡通

ペンを執って感じたのは、月並みながら「光陰矢の如し」という言葉です。

記憶に間違いがなければ、友の会発足の頃から会員であったと思います。従って年齢も壮年から老年になってしまいました。

「津山洋学」のことは箕作・宇田川両家の方々が近代日本の発展に大きく貢献された、という事くらいしか知らず、「友の会」に入れていただければ、このことに関して少しは勉強できて、楽しませていただけるな、と思った程度でした。

この類いの施設では、本館は国内では唯一無二と聞いていますが、当初の施設から現在地への移設、そして常設展以外の特別展の開催、加えて友の会では小旅行などの計画等々、学芸員さんや事務局諸兄のお陰で、あれやこれや有意義な時間を過ごさせていただいているということ、感謝の限りです。

そして少しはお役に立ちたいと思いつつ、何もできていませんが、たまたま観光協会に属して、ボランティアガイドをしているものですが、城東地区を巡る際は、時間に余裕があれば入館、できなければ阮甫旧宅と館前の銅像で「津山自慢」をしている次第です。ガイドの後輩にもこの「津山自慢」は声を大にして申し送っているんですよ。

「津山洋学資料館友の会永遠なれ」格好いい文句でペンを置きます。

研修バス旅行は心の宝

實平千代子

友の会の年 2 回の研修バス旅行は、研修と親睦をかねた私の大好きな現地探訪でした。新型コロナウイルスの流行が一日でも早く終息して、再開できますようにと願っています。

春は県外へ遠出、秋は県内の近場を巡りました。企画がすばらしく、個人では行きにくい所へ行け、学ぶことが多かったです。各地での昼食も楽しみでした。東京をはじめ県外の会員の参加もあり、熱意がよい刺激になりました。秋は、岸田吟香や山田方谷の足跡を訪ねたり、洋学者関係の史跡巡り等をしました。

春の日帰り旅行は、例えば牧野富太郎記念館と高知県立牧野植物園等、シーボルト展等、多くの地へ出かけました。館長（現・名誉館長）の下山純正さんの説明を聞きたくて、ついて歩きました。20

06年6月3日からの1泊2日の友の会創立25周年記念研修バス旅行「美濃・近江路をめぐって」は、忘れられません。私が唯一参加できた泊まりがけ



旅行でした。彦根城、伊吹山8合目の自然と草花、関ヶ原合戦場、夜は長良川鵜飼見学で、かがり火を焚いての情景は今でも目に浮かびます。2日目は岐阜城天守閣、歴史博物館、内藤記念くすり博物館。土産に「白澤」を買い、今も我が家の奥の間の違い棚に鎮座しています。薬膳料理も印象に残っています。

友の会に、もつと若い人が参加して、いろいろな年代の人で構成され発展しますようお願いしています。波乱に富み、多様な事業で社会貢献もされた岸田吟香さんが大河ドラマになればと思っています。

友の会40周年に想ひこ

末澤敏男

「記念誌40年のあゆみ」を送って下さり、ありがとうございました。

何度も読み返しております。洋学資料館友の会の大切な宝です。

美作地方の見学会は、知っています。案外知らない事が多く勉強になります。研修バス旅行



(県外)では、参加者はどなたも視野が広がった様子で、満足感で生き生きしていました。思い出深い行事として!!

講演会、講師は全国から来られ、多くの知識を授かり、ありがたいことです。

オランダ料理の夕べ、ロシア料理の夕べが国際ホテルで何回か開催され、参加して食文化の違いを知ることができました。

その他、平成25年6月8日の第33回研修バス旅行、参加47名の多数の方々と緒方洪庵没後150年・適塾開塾175年記念「洪庵の足跡を訪ねて」や、平成21年5月17日の第29回研修バス旅行、高知市方面(県立牧野植物園、牧野富太郎記念館、高知城、その他)、これは植物について勉強ができてよかったです。

私事ですが、勤務していた時の友人、高知県土佐市の人より先日、寒中見舞いを頂きました。その内容は「今年の4月から佐川町出身の牧野富太郎の朝ドラが始まります。司牡丹という醸造所があり、風情のある町です。ぜひお出かけください。」とのことでした。

私の大切な居場所です

山本節子

今、私の手元に一枚の新聞のキリヌキがあります。新「津山洋学資料館」きょうオープン・異国情緒満点・アカデミック、大きな見出しと館の写真が色刷で載っています。私の「洋学あれこれ」スクラップの中の一枚です。平成22年3月19日洋学資料館開館の新聞報道です。ええ

つ、と心がすごく動かされたことを思い出します。

旧洋学資料館時代は、仕事・子育てと忙しい日々で、資料館との接点は少なかったのです。ただ木村岩治先生の新しい館づくりに対する強い思い入れが、いまもなつかしく、強く私の中に残っています。新しい資料館に出会ったのは、仕事・子育てを卒業してからでした。この新聞の報道が私に大きな感動を与え、退職後の私の生活の中に入ってきたのでした。洋学の知識など全くなく、杉田玄白・解体新書という言葉ぐらいのことしか知らない私でした。

開館から私の大切な興味の場となりました。いろいろな企画展、学芸員さんの研究発表、館主催の講演会など参加を重ねていくたびに、すごい人々がこの片田舎の小さい町津山から、日本に世界に「知」を発信されてこられたことにびっくりしました。知識の素晴らしさはもとより、知性の深さ、人づくりのあたたかさ、深さなどを知ることにより、津山の町を自慢したくなりました。

最近「友の会」に入会させていただきました。館の草取り奉仕を何回かいたしました。自分が草を一本一本抜きながら、この大切な居場所につながっていることに、とても嬉しい気持ちになつていきます。これからもこの大切な洋学の歴史遺産を多くの人々に発信し、大切に保存していただきたいと強く願っています。これからも度々館に足を運びたいと思います。よろしくお願いたします。

植栽整備ボランティアの実施



11月13日に実施の予定が、雨天で20日に延期となり、10人の参加者で、資料館中庭の植栽を整備しました。伸び過ぎた樹木の剪定や雑草の除去など、短時間でしたが、見違えるほどきれいになりました。

菓草の小径から



ハッサク ミカン科

江戸時代末期、尾道市因島のお寺で原木が発見されたのを機に、栽培が始まったとされます。ビタミンCやクエン酸など、多くの栄養成分を含んでいます。

蘭学 史跡探訪 ④

二番目にできた辞書『訳鍵』ゆかりの地

(千葉県佐倉市・京都府京都市・京田辺市)

会員 松浦信輝

ハルマ和解に続いて、それを簡略化した日本で二番目の蘭日辞書『訳鍵』は、稲村三伯の弟子藤林普山により文化七年(一八一〇)に刊行されました。ハルマ和解は約八万語でありましたが、三伯の許しを得て『訳鍵』は約三万語に簡略化したものでした。この辞書は多くの蘭学者に用いられ、普及しました。現在、この『訳鍵』は津山洋学資料館に常設展示されており、一度、ご覧になってください。

私はこの『ハルマ和解』、『訳鍵』に続いて出された『ゾーフハルマ(長崎ハルマ)』とこれらの基となる



京都東山黒谷金戒光明寺の藤林普山の墓

つたフランソワ・ハルマの蘭仏辞書の計四点を佐倉順天堂のある佐倉高校鹿山文庫で見ることがあります。四点が揃っているのは、佐倉藩主堀田正睦が蘭癖大名と言われるほど蘭学に力を入れたことによります。

普山の墓は「藤林普山先生之碑」と共に、京都東山の黒谷金戒光明寺の文殊塔の裏手にあります。通路から少し入った見つけ難い所ですが、静かに眠っておられます。昭和後期に、柱石は再刻され整備された様です。普山は現在の京田辺市の出身で、

当地には「蘭学の泰斗藤林普山先生誕生遺跡」碑、「藤林泰介塚(泰介は通称)」「贈従四位藤林普山之墓」があります。

アクセス

佐倉高校鹿山文庫 千葉県京成線佐倉駅より

南西へ徒歩十分

東山黒谷金戒光明寺 京阪電鉄神宮丸太町より東へ徒歩三十分

藤林普山碑 京田辺市普賢寺水取 JR同志社前駅より南西へ三km

参考文献

京都府医師会『京都の医学史』思文閣(一九八〇)

藤林普山会『普山』第四号 藤林普山会(一九九五)

藤林普山会『普山』第四号 藤林普山会(一九九五)

編集後記

植栽ボランティアに参加しました。中庭には、「通信」13号で紹介されたツワブキの黄色い花が咲き乱れていました。地面を覆っている笹や棘のある枝と格闘しながら、初対面の方とも話が盛り上がり、心温まる一時を過ごすことができました。

14号は、「40周年記念企画」として編集しました。友の会は、県内外の、300名を超える方々の想いに支えられていることを改めて感じていきます。これからも皆さんの期待に応えられる企画を工夫していきたいと思えます。

今年の冬は観測史上最大の積雪に見舞われました。整備した資料館中庭の草木が、厳しい冬を耐えて芽吹き、来館者の目を楽しませてくれるのを心待ちにしています。

(N)

津山洋学資料館友の会通信

第14号

令和5年2月

編集・発行

津山洋学資料館友の会事務局

〒708-0833

津山市西新町5

津山洋学資料館内

☎0868-23-3324